

第1章 現況と課題

1 江田島市の現況

(1) 概要

ア 位置・交通条件

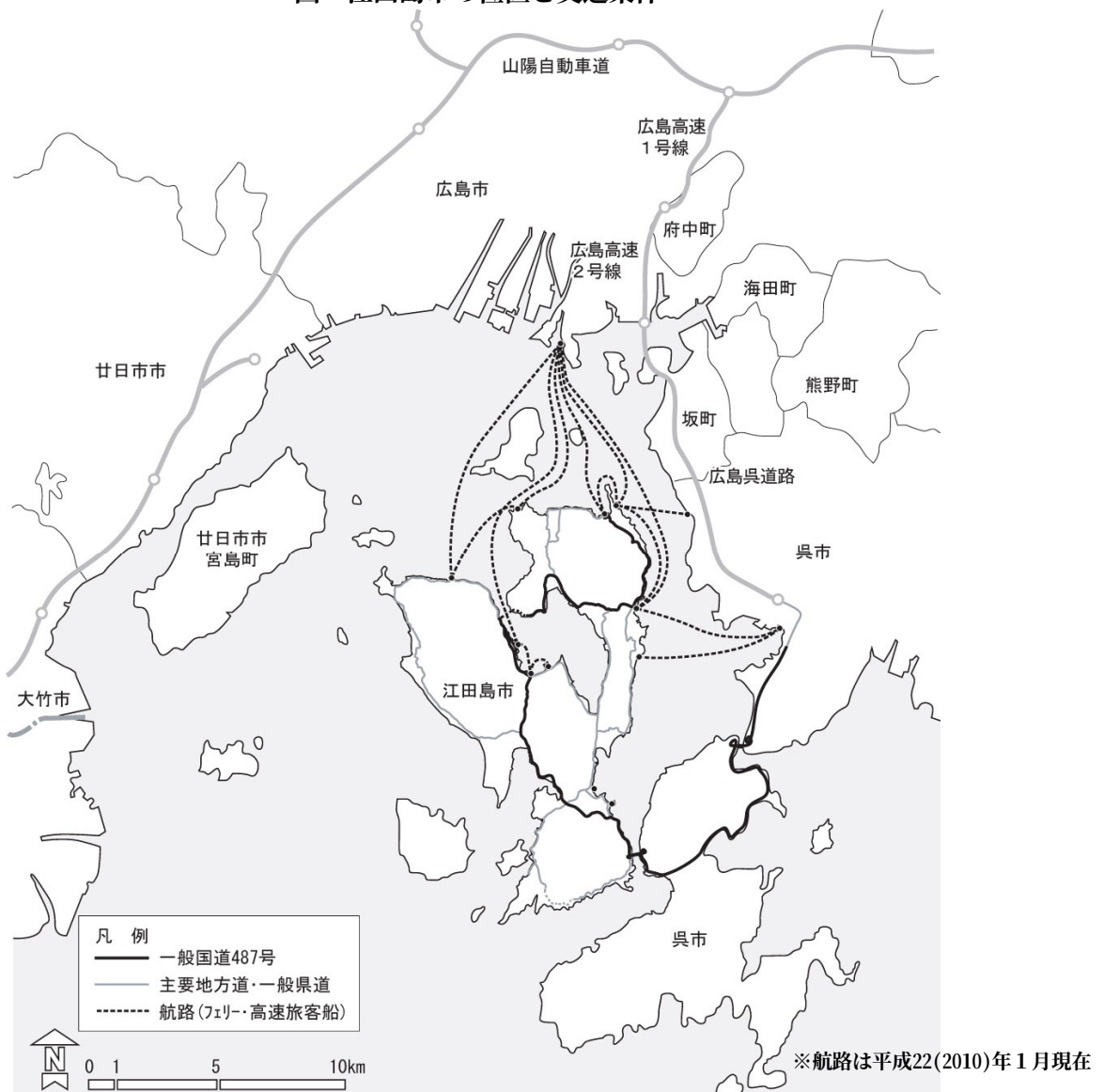
江田島市（以下「本市」といいます。）は、広島県南西の広島湾に浮ぶ江田島、能美島とその周辺に点在する島々で構成されている面積100.94km²（平成19(2007)年3月31日時点）のまちです。

広島市からは海上約7.5km、呉市からは海上約6kmの位置にあり、呉市とは、音戸大橋、早瀬大橋の両架橋により結ばれ、実質的には陸続きとなっています。

道路網は、国道487号と主要地方道江田島大柿線が南北の軸となり、それとつながって主要地方道高田沖美江田島線、一般県道大君深江線、同石風呂切串線などが沿岸部を中心に走り、狭い区間もありますが、島内を周遊できる構成となっています。

本市へのアクセスは、呉市から音戸大橋、早瀬大橋を通るルートと、広島市及び呉市と結ぶ海上交通があり、市内ではバス路線によって主な港や市街地・集落が結ばれています。

図 江田島市の位置と交通条件



イ 沿革

本市は、明治21(1888)年には16の村がありましたが、翌年に行われたいわゆる明治の大合併で10の村となり、その後の編入や合併、町制施行などにより、昭和26(1951)年に江田島町、昭和29(1954)年に大柿町、昭和30(1955)年に能美町、昭和31(1956)年に沖美町が誕生しました。そして、平成16(2004)年11月1日に4町が合併し、「江田島市」としてスタートしました。

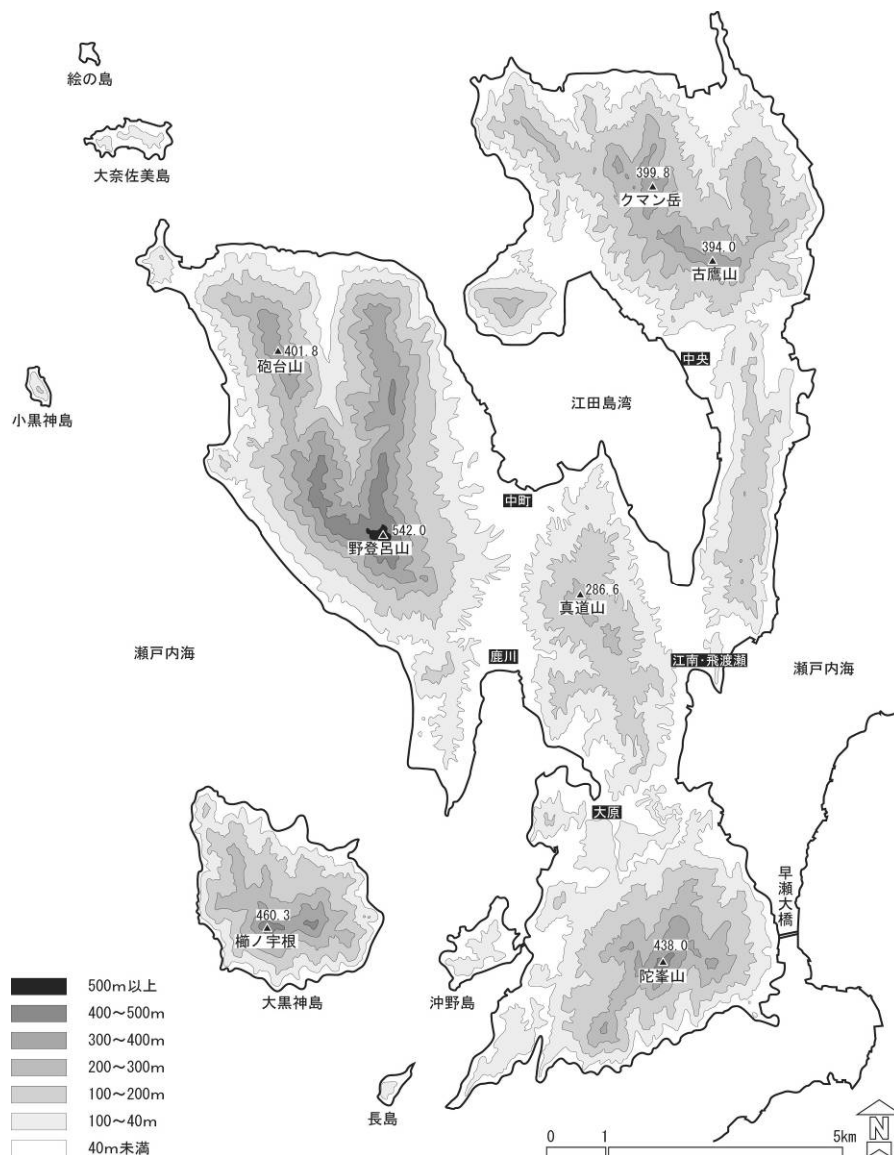
ウ 地形

本市は、広島湾の南に位置する島で、変化に富んだ海岸線や平地、丘陵地、山地などの多様な地形条件となっています。

この中で、野登呂山、陀峯山、砲台山、クマン岳、古鷹山などを中心とした山地部や、その山麓付近の丘陵地が面積の多くを占めています。

まとまった平地は、江田島町の中央、江田島町と大柿町の境界付近の江南・飛渡瀬、能美町の中町、鹿川、大柿町の大原などに広がっています。

図 江田島市の地形条件



※「(1) 江田島市の概要」は、「江田島市総合計画」(平成19(2007)年3月策定)から引用しながら記述しました。

(2) 人口・産業等の動向

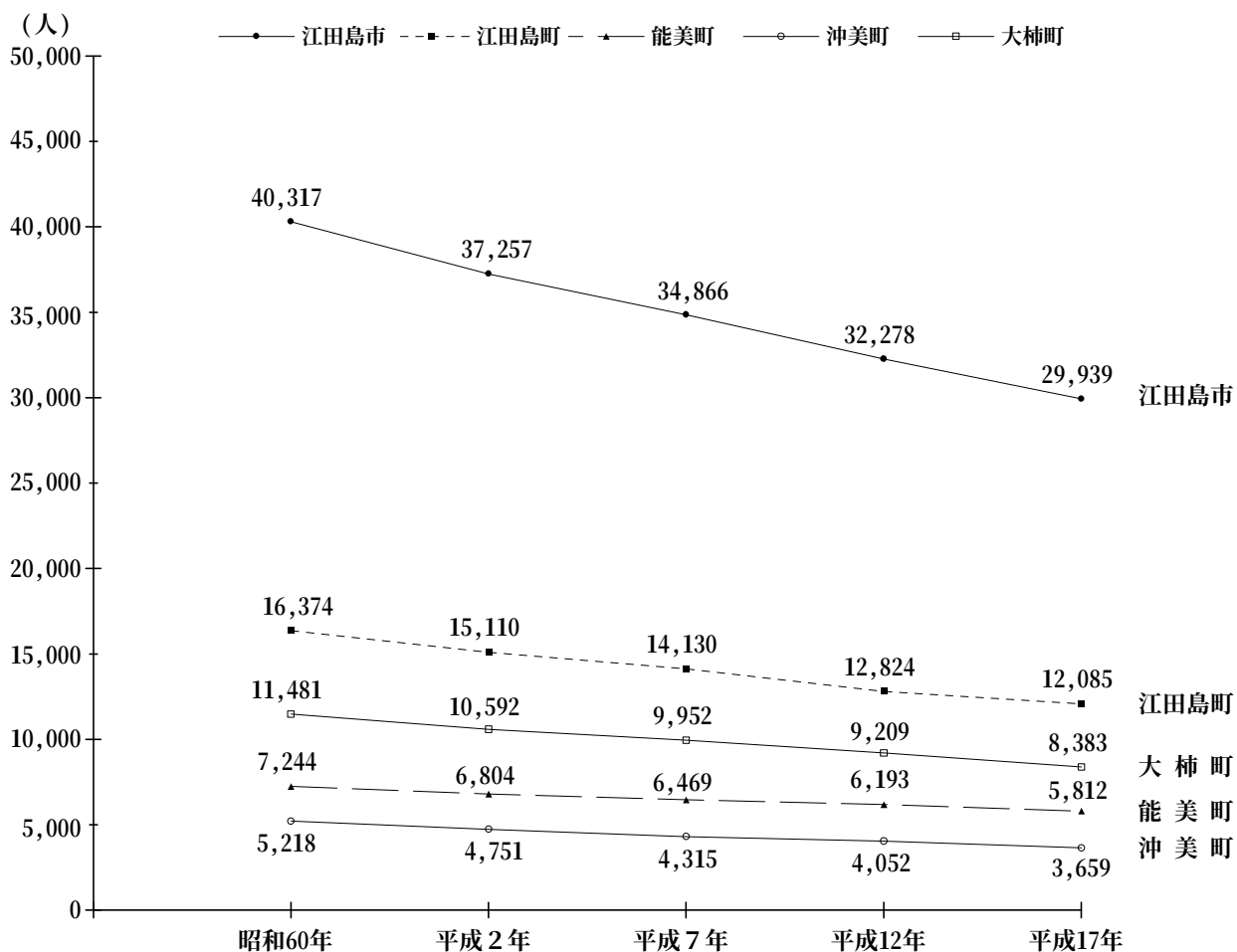
ア 人口の動向

(7) 総人口の推移

総人口は、減少傾向が続いており、平成17(2005)年29,939人となっています。

地域別には、各地域とも減少傾向にあり、平成12(2000)～17(2005)年の5年間の減少率は、江田島町 5.8%、能美町 6.2%、沖美町 9.7%、大柿町 9.0%となっています。

図 総人口の推移



注：国勢調査による。

(4) 年齢別人口の動向

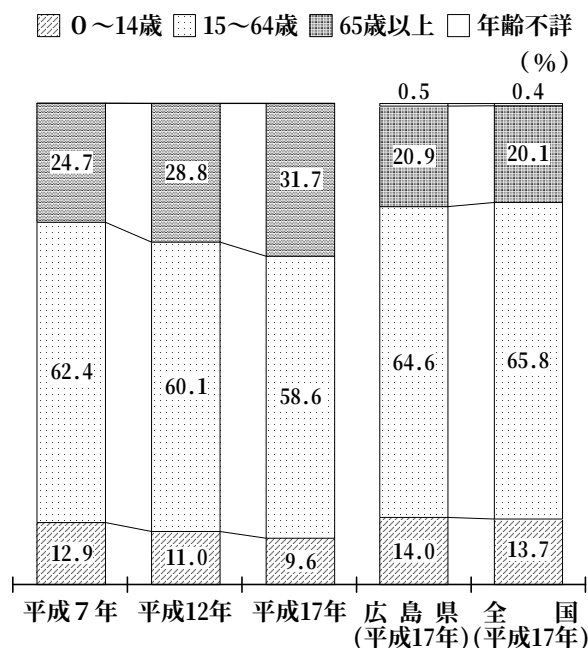
年齢三区分別人口割合の推移は、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口が低下、65歳以上の老年人口が上昇傾向にあります。

高齢化率は31.7%で、広島県より10.8ポイント高くなっています。

年齢三区分別人口割合の推移を地域別にみると、各地域とも年少人口と生産年齢人口が低下、老年人口が上昇傾向にあります。

高齢化率は、江田島町27.9%、能美町32.8%、沖美町38.1%、大柿町33.8%となっています。

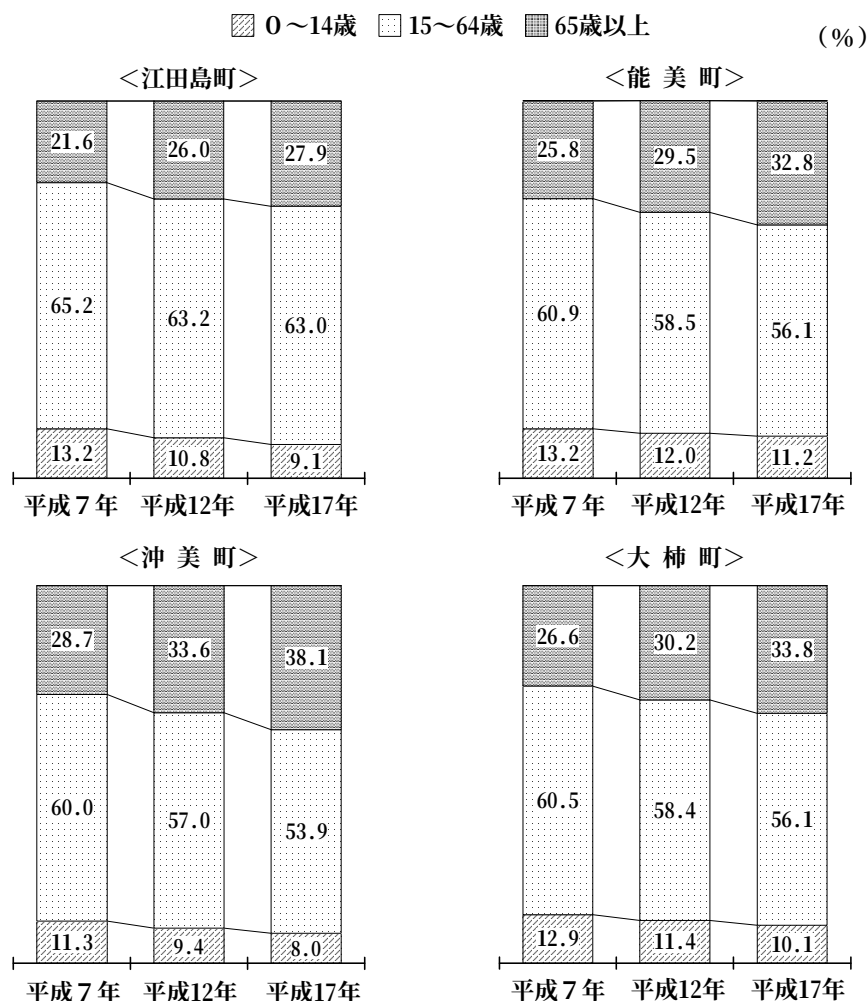
図 年齢三区分別人口割合の推移と比較



注-1: 国勢調査による。

-2: 年齢三区分別人口は、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)で区分した。

図 地域別年齢三区分別人口割合の推移



注-1: 国勢調査による。

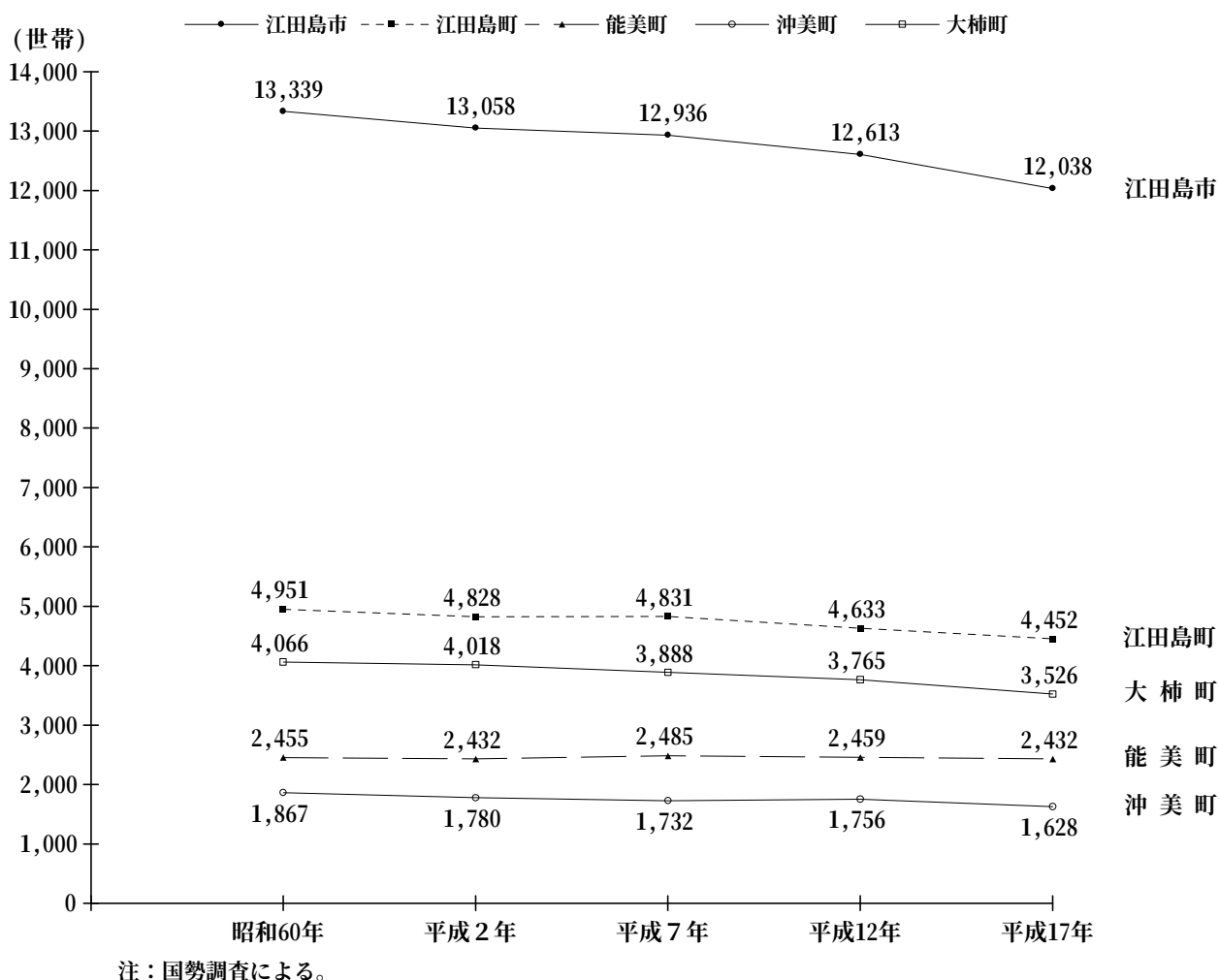
-2: 年齢三区分別人口は、年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)、老年人口(65歳以上)で区分した。

イ 世帯数の動向

総世帯数も、人口と同様に減少傾向が続いており、平成17(2005)年12,038世帯となっています。

平成12(2000)～17(2005)年の5年間の減少率は、江田島町 3.9%、能美町 1.1%、沖美町 7.3%、大柿町 6.3%となっています。

図 総世帯数の推移

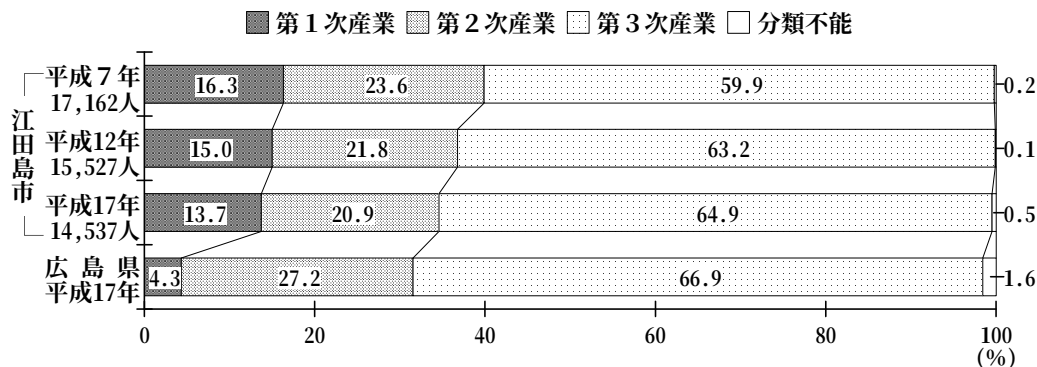


ウ 就業者数

就業者数は、平成17(2005)年14,537人で、減少傾向にあります。

産業別就業者数割合は、第1次産業13.7%、第2次産業20.9%、第3次産業64.9%で、第1次、第2次産業の割合が低下し、第3次産業の割合が高まっています。

図 産業別就業者数割合の推移



注：国勢調査による。

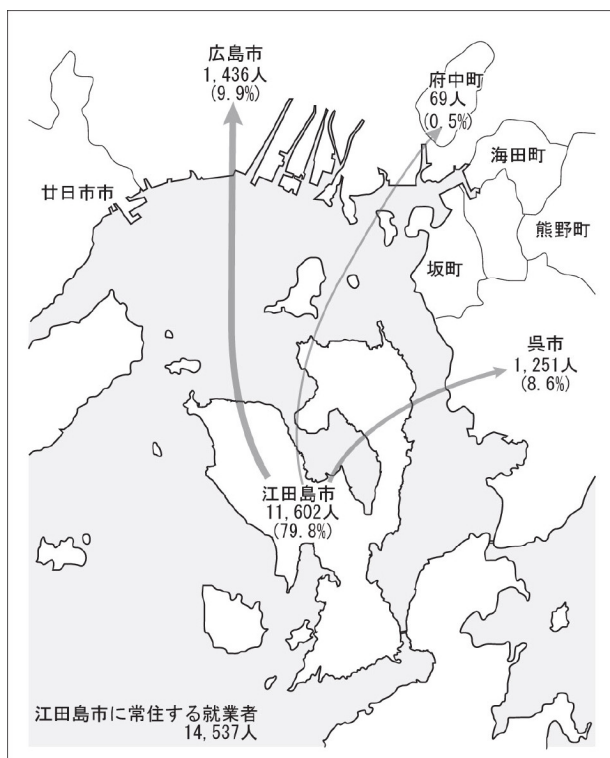
エ 通勤・通学の状況

15歳以上の就業者、通学者の通勤・通学先は下図のとおりです。

就業者は、約8割が市内に従業し（自宅を含む）、市外への通勤者は広島市 9.9%、呉市 8.6%などとなっています。

通学者は、市内の割合は29.8%と低く、広島市（通学者の割合48.9%）、呉市（同15.3%）への通学者の割合が高くなっています。

図 通勤の状況



注-1：平成17年国勢調査による。
-2：市外は上位3位までを示した。

図 通学の状況



注-1：平成17年国勢調査による。
-2：市外は上位3位までを示した。

2 都市づくりの課題

本市の動向と都市計画の現状、都市づくりに関する市民ニーズ、江田島市総合計画に示されている本市の主要課題などを踏まえて、都市づくりの課題を列記すると、次のとおりです。（注）

(1) 基本的な課題

① 少子高齢化に対応した都市づくり

本市は、今後、少子高齢化が一層進むものと見込まれ、高齢者、障害者等が暮らしやすい都市づくりを進めるとともに、子育て世帯のニーズに対応した都市づくりを進め、若い世代の定住を促進する必要があります。

② 産業の活性化と就業機会の確保

人口定住、特に若い世代の定住を促進するためには、就業機会の確保が不可欠の条件であり、産業基盤の整備、近隣都市への通勤条件の向上等により、産業の活性化と就業機会の拡大を図る必要があります。

(2) 個別の課題

① 良好な自然環境の保全

瀬戸内海に育まれた樹林地、海岸線などの良好な自然環境を、本市の貴重な地域資源として保全する必要があります。

② 適切な土地利用の規制・誘導

良好な自然環境を保全するとともに、無秩序な開発等に伴う自然災害を防止するため、適切な土地利用規制を行う必要があります。

また、限られた土地資源を有効かつ効果的に活用しながら、良好な都市環境を形成するため、土地利用目的に応じた適切な土地利用規制、誘導を行う必要があります。

③ 公共交通の充実、重点的な取組

中心地等への交通の利便性、近隣都市への通勤、通学等の利便性を確保するため、道路網の整備、港湾の整備、公共交通の充実等を図る必要があります。

公共交通の充実については、市民ニーズへの対応、少子高齢化への対応などの観点から、重点的な取組を行う必要があります。

④ 都市施設の整備、活用

安全で快適な都市環境の形成と円滑な都市活動の確保を図るため、都市計画道路未整備区間の整備、都市公園等の有効活用、下水道の整備、河川・水路等の改修等を進める必要があります。

⑤ 日常生活の利便性の向上

小規模に分散した市街地・集落における日常生活の利便性を確保するため、公共交通の充実、公共施設の整備、活用等により、基礎生活圏における生活サービス機能の向上を図る必要があります。

注：都市計画の現状については19～53頁の各項目の「現状と課題」に、都市づくりに関する市民ニーズについては、「資料3 市民意識調査結果」（101頁以降）に記述しました。

⑥ 市街地における居住環境の向上

道路等の整備水準の低い市街地、住宅の密集により居住環境が悪化している市街地、緊急車両の通行が困難な地区が連たんしている地域等については、生活道路の整備等により、居住環境の向上を図る必要があります。

⑦ 子ども、高齢者等に配慮した都市づくり

少子高齢化に対応して、子どもたち、高齢者、障害者などが暮らしやすいよう、まちのバリアフリー化、通学路の確保、歩道の整備などを進める必要があります。

⑧ 都市の防災性、防犯性の向上

誰もが安全で安心して暮らせるよう、自然災害の防止、火災時の安全性の確保などによる防災性の向上や防犯性の向上を図る必要があります。

⑨ 地域特性を生かした良好な都市環境と景観の形成

本市の貴重な資源である温暖な気候、海と島の景観などを継承しつつ、良好な都市環境と景観の形成を図る必要があります。

⑩ 地域特性を生かした市民のまちづくり活動の促進

各地域における豊かかつ多様な資源を活用し、地域ごとに特徴のあるまちづくりを進めるため、市民のまちづくり活動を促進する必要があります。